

高知大空襲を風化させない

「7月4日」は何の日かご存じですか。1945年7月4日は高知大空襲が起こった日です。憲法9条の改悪が狙われる今、過去の悲しい歴史を風化させず、平和の大切さについて足元から見つけ直しましょう。

1945年7月4日の出来事

B29爆撃機1号機が高知市上空に飛来し、1060.8米トン(1シヨートン)907.18474キロの焼夷弾を投下しました。この攻撃による死者は401人、不明者22人となっています。1万2000戸近い家が全焼壊となり、市街地の40%が焼失しました。今も高知市内には、当時の状況を伝える戦跡がいくつも残っていますので紹介します。



高知市大空襲直後の写真

①織田齒科(升形)

織田齒科は、大正14年に建てられたルネッサンス風の貴重な建物で、空襲を受けながらも、その一角だけは焼け残りました。その際、焼夷弾による焼け跡は、当時のことを風化させないために、今も残されています。



織田齒科に残る焼け跡

②菜園場橋の爆弾の跡

1945年6月15日の小規模な空襲の際、B29が投下した爆弾



菜園場橋のモニュメント

(焼夷弾・不発弾)が橋を支えているアーチ状の鉄製トラスを直撃しました。かるぼーとの建設に伴い、撤去されることとなっていました。市民運動により、隣接される公園にモニュメントとして保存されました。この橋を制作した谷村工作所は、1945年7月4日の高知市大空襲で工場が全焼したため廃業しました。

③戦火をくぐり抜けたソテツ(オーテピア前)

追手前小学校(当時は第二国民学校)は、1945年7月4日の高知市大空襲によって完全に焼失しました。植えてあったソテツも焼かれましたが、1株のソテツが芽を吹き返し、追手小学校のシンボルとして校庭に残されました。現在は、オーテピア入り口に植えられています。

④追手前高校時計台(追手筋)

1945年7月4日の大空襲によって、講堂、柔道室、剣道室、武器庫、体育館、体力増進館、高知一中校友会館、小使室を焼失しましたが、本館だけが残



ここにソテツがあります

りました。追手前高校百年史には、戦争中(1945年)の宿直日誌の中で、1945年5月13日から14日にかけて空襲によって、時計台の壁面に無数の弾痕が残ったことが示されています。現在は表面を塗り替えて見えなくなっていますが、上塗りの下には、今でも弾痕が残っている可能性があります。ちなみに、追手前高校の屋上には、昭和天皇の御真影がまつられた奉安殿が作られ、毎日の朝礼や登下校時には必ず奉安殿に最敬礼することが義務付けられ、天皇を神格化していきました。

◇ロンドン集會

8月2日(月)10時~12時30分

◇ナガサキ集會

8月9日(月)10時~12時30分

◇国際会議

8月6日(金)10時~12時30分

◇原水爆禁止世界大会

今年も原水爆禁止世界大会が開催されます。コロナ禍の中で、「集まって集会とはなりません、オンラインで集会が開催されます。ぜひ参加ください。」



当時の追手前高校の写真

全員参加の全国学力学習状況調査は中止を!

全国の小学6年生、中学3年生全員に対して行われている「全国学力学習状況調査」(以下「全国学テ」)は、2021年5月の実施で14回目を迎えました。全国学テの問題点について「子どもと教育を守る高知県連絡会」に寄稿していただきました。

「全国平均以上」が至上命題化

「全国学テ」の始まった当初、高知県の結果が全国の最下位層となっていたことを受け、高知県教育委員会より「全国平均より上位を目指す」との目標が掲げられ、学校教育の至上命題化されてきました。その中で、学校では「過去問題」を使った練習や、テスト教科を優先して授業が行われるなどの「全国学テ」に対する事前のとりくみが行われるようになってきています。また、家庭学習と「学力」と関係があるという結果分析を受けて、宿題の量も顕著に多くなっています。

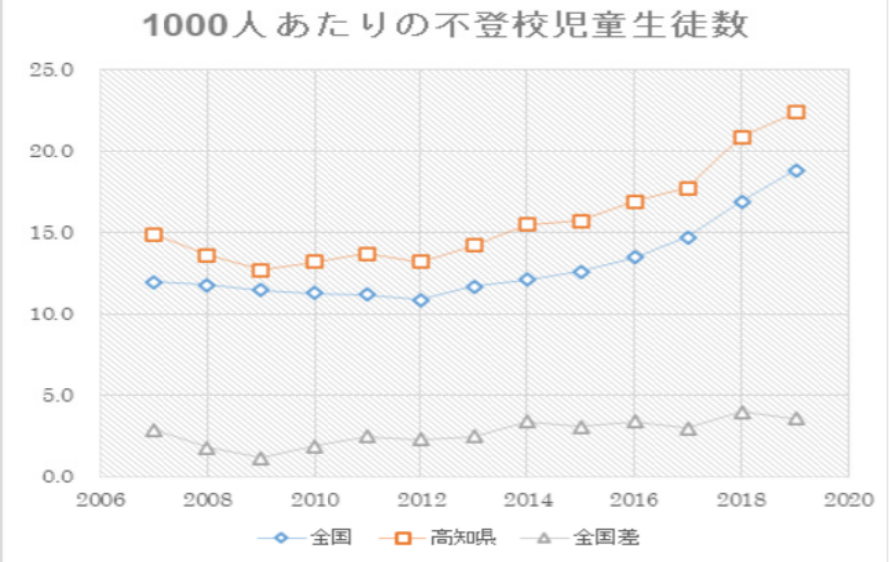
県版学テが競争に拍車

また、高知県では、2019年より高知県独自の学力状況調査(以下「県版学テ」)も始めました。実施対象学年が小学校5年生と中学校2年生であること(現在は小学4年生、中学1年生にも拡大)、12月に実施していることなどからも「全国学テ」の事前

不登校増と喜び奪われる教員

一方、高知県の不登校者数は増え続け、全国平均との差も広がっています(表、グラフ参照)。2009年度も小学校334人、中学校783人と増加を続けており、1000人あたりでは小学校10.3人(5位)、中学校45.3人(2位)です。このことは、「全国学テ」「県版学テ」を中心とした点数競争とは無関係ではありません。子どもたちは、点数競争に追われ、宿題の多さに「子どもの時間」を奪われ、精神的に追い詰められています。

教員も大きな影響を受けています。「全国学テ」において全国の平均点以上という結果を求められ、テストの点数を上げるための「指導」を強いられ、教員としての誇りや、やりがいも奪われています。



年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
全国	12.0	11.8	11.5	11.3	11.2	10.9	11.7	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8
高知県	14.9	13.6	12.7	13.2	13.7	13.2	14.2	15.5	15.7	16.9	17.7	20.9	22.4
全国差	2.9	1.8	1.2	1.9	2.5	2.3	2.5	3.4	3.1	3.4	3.0	4.0	3.6

子どもと教育を守る高知県連絡会・事務局長 石川

抽出と正確、数年間隔で十分「全国学テ」の第一義的な目的は学力・学習状況を把握分析することにあります。そのため抽出調査の方が適しています。また、全国学テも県版学テも毎年同じような分析結果が発表されているように、毎年行う意味もなく、数年に一度の実

施にすべきです。「全国学テ」には毎年50~60億円の予算が使われています。その予算は教員不足解消などの教育条件整備にこそ使われるべきです。「全国学テ」を利用し、競争を煽ること、学力を向上させようとする考え方は、国際的にみても時代遅れです。そして、その弊

害も取り返しのつかない大きなものになりつつあります。既にいくつかの県では独自のテストを取りやめることが始まっています。学テは今すぐ見直しを子どもたちに悪影響を与えず、教育そのものにも悪影響を与えている「全国学テ」を基にした施策を私たちに見直すことが必要です。国や県に対して、①「全国学力・学習状況調査」を主数調査から抽出調査にし、数年間隔での実施とすること。②「高知県学力定着状況調査」をすぐに中止すること。③子どもたちが大切にされる教育、学校づくりにとりくめるような条件整備を行うこと。の3つを求めて取り組みを進めていきます。